

令和4年度 相武台地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和5年1月17日(火)午後6時から午後7時30分まで
- 2 場 所 相武台公民館大会議室
- 3 市側出席者 本村市長、森副市長、菅谷南区長、岩本財政局長、
杉野こども・若者未来局長、藤井環境経済局長、山口都市建設局長
川村市民局長
- 4 出席委員等 18人
- 5 傍聴者 4人
- 6 懇談会の要旨

テ ー マ	様々な変化を受ける相武台地区のまちづくりについて
概要	<p>■麻溝台・新磯野地区整備推進事業</p> <p>私たち相武台地区は、「わがまち相武台」を合言葉とし、住んでよかったと思えるまちづくりを目指して活動してきた。今回の麻溝台・新磯野地区整備推進事業に関する見直しの背景に多くの問題等があったことは理解したが、事業再開に当たり示された土地利用方針(案)で、これまで住居系ゾーンになることが示されていたエリアが産業系ゾーンに変更されたことに疑問を感じる。</p> <p>産業系ゾーンとは居住人口を見込んでいない地域である。私は近隣に住んでいるが、隣接地域が産業系ゾーンになることを非常に残念に思う。</p> <p>当該区域が住居系ゾーンになり、居住者が増えることを前提としてまちづくりセンターが現在の位置に移転した経過もある。</p> <p>また、今回の見直しでは、レーダーによる地中調査が行われるとのことだが、土地利用方針が産業系ゾーンに変わるので、万が一地中障害物があってもその上にコンクリート等で覆いをすれば、建物が建てられる。こういった処理方法の違いが、住居系から産業系に変わった理由ではないかと考えている。なぜ急に土地利用方針(案)が変更されたのか、理由を伺いたい。</p> <p>次に、まちづくり区域の見直しと変更についてであるが、現状の階段状の区域割りではなく、村富相武台線を境として相武台地区と相模台地区に分けるシンプルな区域割にして欲しい。現状の階段状の区域割りだと、すぐ隣、ご近所なのに異なる地区に割り振られてしまい、折角の地域活動等が分断されてしまう。</p> <p>また、新磯野に住んでいる相模台地区の住民は、村富相武台線を越えないと相模台まちづくりセンターや公民館に辿り着けない。選挙の投票所も同様である。高齢者の場合、交差点を横断中に信号機が点滅を始めてしまうこともあり、大変危険である。相武台まちづくりセンターや公民館であれば、交通量の多い道路を渡らずに安心して利用できる。実際に地区からもそういう声が上がっている。</p> <p>最後に、麻溝台・新磯野地区の防犯対策はどうなっているのか伺いたい。重機の入っている箇所もあるが、雑草がかなり伸びており、防犯上の危険があるのではないかと考えている。</p> <p>■次期一般廃棄物最終処分場の候補地</p> <p>ごみの一般廃棄物最終処分場候補地の選定について、第1期、第2期整備地に引</p>

き続き、第3期の整備候補地に選定されていることに驚きが隠せない。

最終処分場は、第1期整備地からずっとこの地域に存在している。これが今後もずっと続くのか疑問であるし、安全性に不安を感じている。想定外のことが起こる可能性もあるので、もっとリスクを分散させるべきではないか。

また、ごみ問題という処分場候補地の話題に終始しがちだが、「潤水都市さがみはら」として、より長期的な視点を持ってごみ問題に取り組んでいくための工夫がもう少しできるのではないかと思う。

一般廃棄物最終処分場は1979年から現在までずっとこの地域にあり、現在は、第2期整備地に埋め立てをしている。当該地は埋め立て完了後すぐに使えるわけではなく、20年くらいは無効化待ちをする必要がある。全体で見ると、80年、90年単位でこの地域に最終処分場があることになるのに、更に第3期整備地として埋め立てを予定されている。本当にこの地区にしか置けないのか。他にも分散可能な地域があるのではないか。

反対する理由はいくつかあるが、まず、次期一般廃棄物最終処分場候補地選定結果の説明が非常に抽象的だったことである。説明いただいた中では規制がある、土地区分指定があると言うような話もあったが、法律等の改正も見据えて対応していけば、もっと納得の行く選定プロセスが行えるのではないかと感じる。また、当該選定委員会のメンバーに関係地域の住民を入れる配慮が必要だったのではないかと考えている。候補地選定はまだ終わっていないので、今後、是非地域住民の声も取り入れて欲しい。

次に、安全面である。例えば原発のように、安全だと言っているけど想定外の事故が起こってしまうことはある。事故が起こってから対応するのではなく、事故を防ぐ、いわゆるフェイルセーフシステムがどこまで見込まれているのか。

すぐ近くに活用できる設備があるから、この地域に次期整備地を設置することがコスト的に優れているという話も聞いているが、もし想定外の事故が発生したら、リカバリのためにどれだけのコストが必要になるかを考えると、これ以上こういう多くの人々が住んでいる地域にそういった施設を置くのはいかがかと思う。

最後になるが、ごみの問題は、どこに処分場を置くかという話だけではなくて、減量化や完全燃焼などの色々な考え方があると思う。今すぐの実現できる方法があるかは分からないが、長期的視点に立って相模原市を考えるとときには、そういうことも含め、様々な取組を進めていくための視点も必要ではないか。

■ 小学校の再編に伴う児童館の集約及び閉校施設の利用

令和8年4月を目途に、地域に3校ある小学校を2校に統合する方針が決定され、それに伴い児童館の運営を整理していると聞いた。市の行財政構造改革プランにおいても1小学校区に複数ある児童館を集約する方向性が出されており、これが適用されるのではないかと心配している。中でも相武台第3児童館は目の前が公園で、立地的に非常に優れている。子どもたちのためにもぜひ存続をお願いしたい。

また、学校再編により閉校になるもえぎ台小学校の跡地において、文科省所管の「みんなの廃校プロジェクト」という国庫補助金制度を活用した跡地利用ができた

	<p>いかと思っている。メディアに注目され、他市にも誇れるような新しい取組ができればと考えており、内容についていくつか提案したい。</p> <p>まず、イギリスでも似た事例のある「ファミリーD I Yセンターの設置」である。地域の人たちがD I Yを通して自然と集える場所を作ること、見守り活動に繋がる。集まるだけでなく、家具を作って、展示して、販売する。そういったことにも繋げられる。</p> <p>次に、廃校となる小学校の給食設備を有効活用してお昼ご飯を地域住民に提供する「地域食堂の設置」である。自宅から歩いて行って、お昼ご飯を地域の皆様と一緒に食べる。そういった趣旨の食堂ができることで、高齢者の見守りに繋がると考えている。</p> <p>3つ目は「民間のフリースクールの誘致」である。うまく学校に馴染めない、行けない、そういった子どもたちの受け皿を民間のフリースクールが担っている現実があるが、広い敷地の確保など施設面で苦労していると聞いている。こういったグループの方たちに跡地利用していただけたらどうか。</p> <p>最後に、「合宿等が可能なバスケットボール専用体育施設の設置」である。岩手と言えばバレーボール、長野の菅平と言えばラグビーと言うように、国内には、特定の競技に特化した体育施設を設置している自治体が幾つかある。バスケットボール専用体育館というのは現在全国どこにもないので、専用施設を設置し、それを起爆剤として本市をバスケットボールの聖地にする取組を考えてはどうか。</p>
<p>地区の取組 状況等</p>	<p>相武台地区のまちづくりについては、高齢化や人口減少などからまちの将来に危機感を抱いており、令和元年に実施したまちづくりを考える懇談会で「活力ある相武台を目指して」をテーマとするなど、以前から解決策を検討してきた。</p> <p>麻溝台・新磯野地区整備推進事業については、まちづくり会議で議題として取り上げるなど、以前から再開に向けた動きに注視していた。</p> <p>次期一般廃棄物最終処分場の候補地については、まちづくり会議で議題として取り上げるとともに、南清掃工場や現在の最終処分場を見学するなど、施設の現状や機能などを学んできた。</p> <p>相武台地区の望ましい学習環境のあり方の検討については、まちづくり会議の専門部会として「相武台周辺地域小・中学校の学習環境のあり方検討協議会」を設置し、令和4年3月に検討結果を報告した。</p>
<p>市の取組 状況等</p>	<p>■麻溝台・新磯野地区整備推進事業</p> <p>麻溝台・新磯野地区整備推進事業は、将来的に都市計画上の市街化区域に編入すべきということで、平成9年3月の時点で全体の148ヘクタールについて特定保留区域に設定した。現在、第一整備地区では、そのうちの38ヘクタールを施行している。</p> <p>将来どのようなまちを目指していくかについて、平成17年3月に麻溝台・新磯野タウン計画を策定し、その中で産業系の土地利用、住居系の土地利用という色分けをして進めてきた。平成26年9月には第一整備地区の事業計画を決定し、事業を開始したが、令和元年6月に大量の地中障害物の発出等に伴い事業を一時立ち止まった。</p> <p>再開に当たっては、当該事業が市としてどういう位置付けにあるのか整理した上で判断を行ったが、全体の148ヘクタールについては、市の総合計画や都市</p>

計画マスタープランに位置付けがあることから、土地利用方針の見直しに向けた検討はしつつも、拠点の形成は存続していくという方針を令和3年10月に決定し、その後も様々な検証等を行い、令和4年5月に事業の再開を決定した。

事業再開後の令和4年10月には、地権者の代表者の皆様と事業化に向けた今後の取組等について議論を行った。

土地利用方針が変更になった経緯としては、都市計画上の線引きの話になるが、概ね5年程度に1回ずつ、都市計画のあり方を見直しており、これまでは人口増加に対応し、市街地を拡大するため、線引きをする度に住居地域を増やしてきたが、近年の社会情勢の変化により、令和7年の12月頃に予定している第8回線引き見直しでは、人口フレームによる市街地拡大が困難なことが想定され、第7回線引き見直しでの土地利用方針における住居系の市街化区域への編入が難しくなったことが要因である。

線引きにおいては、15年という比較的長いスパンの中で人口増加が見込まれるかどうか住居系地域の設定の判断に重要となってくる。

平成27年の試算では、人口は1万6千人程度増加する見込みだったが、今回見直した結果2万人程度の減少が見込まれ、住居系の市街化区域の編入が難しいと考えている。しかしながら、拠点としての広大な土地の利用は市としてもプラスになるため、令和3年10月に市街化編入にあたり、産業系での土地利用を前提としたまちづくりの実現を目指すという方針を決定した。

第8回線引き見直しに向け、新たな土地利用方針（案）が適用されるためには、産業用地として市街化区域に入れることが望ましいと位置付けることが必要になる。また、保留区域の位置付けをするためには、新たな土地利用方針（案）における地権者の同意なども必要になる。

最後に、雑草が伸びている箇所があるというご指摘をいただいた。

第一整備地区内の除草は業者委託しているが、小まめに対応することができない分、伸びているところがあるかもしれない。

かなり広大な敷地なので、通行上、防犯上の観点から気になる場所があれば、市にお問い合わせいただければと思う。職員も第一整備地区内は日々パトロールを行っているので、気がついた点については対応させていただく。

また、事業再開に伴い、今後、掘り起こした地中障害物の処理を行っていく予定である。令和6年度後半からは、新たな基盤整備の再開を予定している。その後、出来上がった街区から順次供用開始する予定である。

防犯の話題と少しずれるかもしれないが、交通安全対策についてもご紹介したい。村富線と並行した道路では事故が多いため、注意喚起をするために路面に赤い表示をしたり、止まれの標識が見えるようにしたり、一部交差点改良等も実施している。こちらについても気になる点等あればご指摘いただければと思う。（山口都市建設局長）

まちづくり区域の変更をするための手続きは、「相模原市まちづくり区域に関する規則」の中で、「各地域の歴史、特性等を考慮し、市長が定める」旨が定められており、区域を実際に変更した場合には、まちづくり区域の地区の名称、区域及び実施期日の告示をすることとなっている。

この麻溝台・新磯野地区整備推進事業地区区域内については平成26年度に相武台地区まちづくり懇談会の方から区域の変更案について提案があり、その後、関係する地区のまちづくり会議の意見聴取等を行って、平成31年の4月に変更したという経緯がある。

今後、土地区画整理事業の区域に係る地域環境等の変化により、区域変更、見直しが必要となる場合には、関係する地区や、居住者、地権者等から意見を聞きながらその地区のコミュニティや伝統、文化が分断されないように配慮しながら検討していく。(川村市民局長)

■次期一般廃棄物最終処分場の候補地

今回の候補地選定に当たっては、次期一般廃棄物最終処分場候補地選定審議会において、法令上の規制や、防災や自然環境・文化財保護などの地域特性、更には自然条件や環境条件、経済条件などの観点から設置できないところを除外し、4ヶ所の候補地を答申いただいた。

最終処分場の設置のために法令の改正を行うことはかなり困難である。

審議会については、これまで、各種法令等に基づいて客観的に候補地を判断いただく段階にあったので関係地域の住民の方に参加いただいていた。

今後、候補地の選定に当たっては多くの市民の皆様から色々な考えを聞く必要があるため、地域説明会や市民説明会を開催するとともに、最終処分場の見学会も積極的に開催して参りたい。相武台地区の皆様にも最終処分場の見学会等の機会を捉えて、心配事や疑問点を解消していただければと思う。

また、最終処分場の整備に当たっては、まちづくりの視点からの検討も必要であるため、埋め立て終了後の跡地利用等についても皆様のご意見をいただきながら進めて参りたい。

2点目の有事の安全性について、本市の最終処分場は南海トラフ等の大地震にも耐えられる構造となっており、東日本大震災時に停電はあったが、構造や機能に異常は来たしていない。他自治体の最終処分場も様々な対策を組み合わせることで機能を高めており、東日本大震災や熊本地震等で停電はあったが、構造や機能には異常は無いことから、災害廃棄物の仮置き場として使用された実績がある。

具体的な安全対策として、埋め立て地内に雨を溜めるための遮水シートを設置している。その周りに厚さ55センチメートル、深さ約30メートルの遮水工を設置し、水が出ていかないようにしている。更に遮水工の中と外で水位を変え、遮水工の中側を低く、外側を高くすることで、水が内部から流れ出ていかない工夫をしている。このように様々な方法を組み合わせて安全対策をしている。

不安に思う点として浸出水の問題があると思うが、最終処分場は基本的に家庭ごみを焼却した灰を埋め立てているため、それほど有害なものではないと認識している。毎年、52項目の水質分析を行っており、マンガンのみ放流可能なギリギリの数値となっており、それ以外はすべて基準値内という結果が出ている。現状でもそれほど危険ではないが、更に適切に処理を行った上で排出しているため、例えば、水を飲んだからといってすぐに人体に影響が出るものではない。

次に、事故時の試算は、現状行っていない。

今後のごみの問題を考える上で、ごみの減量化は非常に重要である。本市でも積

極的に小学校や自治会への出前講座等を通じてごみの減量をお願いしている。そういった啓発活動の成果として、平成24年に14万1千トンあった家庭ごみが、令和3年度には、約10%減の12万7千トンまで削減できた。引き続き、減量に向けた取組を行って参りたい。

今後も要望があれば積極的に説明等にお伺いし、心配事等は解決していけるようにしたい。(藤井環境経済局長)

■小学校の再編に伴う児童館の集約及び閉校施設の利用

相武台第3児童館は、平成2年に開館し、建物の耐用年数としては60年を見込んでいる施設である。

もえぎ台小学校の閉校に伴い、相武台第3児童館がなくなるのではないかとのご心配についてだが、まず、令和3年度に策定した行財政構造改革プランにおいて、1小学校区に複数の児童館又はこどもセンターがある場合は1ヶ所に集約し、廃止する施設については地域への譲渡を検討することとしている。令和3年4月の策定時点でそういった施設が複数ある地域について、対象としている。行財政構造改革プランとは別に、さがみはら子ども応援プランと、公共施設マネジメント推進プランが並行して進行しているが、いずれのプランも、今後、施設が老朽化したときにどのように対応するか定めているものである。

相武台第3児童館は耐用年数がまだかなり残っているので、もえぎ台小学校閉校後も取り壊す考えは現時点ではない。ただ、数十年先はどうかと言われると、大分時代が違ってくるので分からないところがある。

将来、検討が必要になった時点で地域の皆様と対話を行い、子どもの状況や地域の実情等を踏まえた上で、建て替えるべきか、近隣施設に集約すべきかをその時の状況に合わせて考えたい。

子ども関係の施策については、市として力を入れていきたいと思っているので、お気づきの点があれば、是非皆様からも沢山ご意見をいただき、新しい施策に活かして行きたい。(杉野こども・若者未来局長)

もえぎ台小学校の跡地活用に関連し、他市にも誇れるような新規施策をとということでご提案いただき感謝申し上げます。行政だけでなく、地域や民間活力、既存の施設も使った形での提案は市全体の活性化にも繋がる大変魅力的なお話であった。

市では、利用しなくなった資産の活用に関する基本的な考え方を定めており、その中では、行政課題の対応のための活用や、公共の福祉のために利用することを原則とすることや、全市的な観点を持って地域との合意形成を図りながら、最適な活用方策を検討することを定めている。

もえぎ台小学校閉校後の取扱いについては、地域の方からも色々な意見をいただき、どういったものがかいいか考えていく。他の地域では、閉校になった学校の活用に関するワーキングを作り、市とやりとりをしながら方向性を決めている事例もあるので、もえぎ台小学校跡地についてもご意見を伺いながら進めて行きたい。

閉校になることで大きな土地が空くので、良い活用法が見つけられるように取り組んでいく。ただ、麻溝台・新磯野地区整備推進事業区域内に入っている場所でもあるので、慎重に検討しながら進めて参りたい。(岩本財政局長)

懇談内容	
地区の発言	先ほどもえぎ台小学校の跡地利用は麻溝台・新磯野地区整備推進事業地区の区画整理の話もあるので慎重にと言っていたが、もう少し詳しく説明してほしい。
市の発言	もえぎ台小学校の所在地が麻溝台・新磯野地区整備推進事業区域内に入っているため、区画整理がどういう方向に行くかによっては学校跡地の活用の方向性も変わってくるかと思い、言及させていただいた。（岩本財政局長）
地区の発言	先ほど廃校利用の提案がいくつかあったが、今後の展開次第では実現できないものが出てくる可能性があるということか。
市の発言	現時点では、いただいたご提案の1つ1つについて、どれがどうだという話ではない。ご提案も参考にしつつ、これ以外の意見も様々な方法で聞き、皆様と意見交換しながら進めていきたい。（岩本財政局長）
地区の発言	<p>最終処分場候補地の選定に関する判定結果が抽象的すぎるという話があったが、私も同感である。次期一般廃棄物最終処分場候補地選定審議会から出ている報告書には、過日開催された一般説明会では説明されていない内容が記載されている。そこについても説明の必要があると思う。</p> <p>先程、法改正までは考えていないという話があったが、現行の法律ありきで色々な項目にABCの評価をつけながら可能性を排除していき、候補地として残っているのが4つだけという現状には納得できない。相模原市の地図を見ると、まだ他にも土地がある。本当に候補地を相武台地区の近くに設定しなければならないのか再検討して欲しい。また、検討の際には地域住民から選出された代表も加えて欲しい。</p> <p>2つ目の安全性に不安を感じる点について、安全性を高めるための様々な努力をしているのは分かるが、予想もしなかったような大地震が来て、福島原発も安全が確保できなくなった。絶対的な信頼性や安全性はない。福島の事例があったのにも関わらず、事故時の試算がされていないのはおかしい。</p> <p>最後に、これから先もごみの問題はずっと続いていく。我々が生きていく上で欠かせないものである。もう1回相模原全体の地図を見直して、検討いただきたい。</p> <p>今後も相武台地区として反対の立場は曲げられないが、この問題については、住民を巻き込んできちんと議論をしていく必要があると思う。</p>
市の発言	<p>まず、評価をABCで表しているのは少々乱暴ではないかというお話だが、選定の結果報告書は市ホームページ上で公開している。こういった場合はAで、こういった場合はCと細かく評価基準を定めているので、ご要望があれば各地区の評価内容についてもご説明させていただく。</p> <p>次に法令の改正等による候補地選定方法の変更だが、様々な法律等を鑑み、絞りに絞ってやっと4ヶ所出てきた状況である。基本的には、現状の選定方法等に基づき4ヶ所のうちの1ヶ所に決めたいと思っている。今後、最終処分場の視察等の機会を捉え、皆様のご心配事は真摯に受け止め対応して参りたい。</p> <p>将来的なごみ処理の問題については、現在本市では全て市内で処理しているが、一部民間委託している他自治体もあるので、そういった視点も取り入れたいが、まずは最終処分場をしっかりと整備した上で、色々な方法を検討して参りたい。（藤井環境経済局長）</p>
地区の発言	やり取りがQ&Aのようになっていて、「未来を考える」ための懇談会のはずな

	<p>のに、閉塞感を感じる。会話になっていない気すらする。</p> <p>個人的には、相武台地区の近くに第3期候補地を置くと言うことは、第4期も置きたいんだろうな、じゃあ今ある候補地でローテーションするのだろうかとか色々考えてしまう。市側にもこういった不安感は伝わっていると思うので、もっと別の視点からの話が聞きたかった。</p>
地区の発言	<p>次期最終処分場の必要性は認めるが、相武台地区の近くにはすでに最終処分場があり、近くに清掃工場もある。負担はもっと市全体で分散してもらいたいというのが我々相武台地区の考えである。</p>
地区の発言	<p>この40年、南区麻溝台で相模原市のごみ処理をずっと請け負ってきた。更に近隣に次期最終処分場の候補地を設定すると言うのは、予算的な部分やごみの運搬の部分等で大きなメリットがあるのだろうとは推察する。</p> <p>東日本大震災の前に福島原発を見学させていただいたが、その時も日本の原発は100%安全だ、南海トラフ地震にも耐えられると言っていた。南海トラフ地震以外のもっと震源地の近い地震があったとしても、それほど大きな被害にはならないだろうとも言っていたが、それでも地域住民は不安になると思う。</p> <p>現在は候補地が4つに絞られているが、その前には佐野川地区が候補に入っていた。佐野川は住宅が少なく、国道20号線からも近い。候補地から外れた理由は多額の整備費のためだった。多額の予算がかかったとしてもなるべく人の少ないところに設置する案を、是非再び入れていただければと思う。</p> <p>併せて、今後、麻溝台・新磯野地区整備推進事業が非常に近いところで予定されている。これからこの南区でもどんどん発展して、新しいまちが出来るところのすぐ傍に候補地を設定するには私はやはり反対である。</p>
市の発言	<p>お話のとおり、佐野川地区は施設整備費が非常に高額になるため除外した。4ヶ所の候補地を中心に考えたいが、ご意見として承る。(藤井環境経済局長)</p>
地区の発言	<p>会を通じて事務的な回答が多く、「懇談」ではないと感じた。こうなったらいいなという前向きな気持ちを入れて欲しい。ただ回答するだけでは、今後のまちづくりを良くしようという趣旨の懇談会には思えない。是非自分の部署に持って帰って、答えをまた探して欲しい。</p>

市長の感想等	<p>お時間いただき感謝申し上げます。対話が出来ていないというご指摘をいただきました。まちづくり懇談会は原則年に1回の開催で、他地区では1、2テーマでやりとりしているので、今回は少々テーマが多かったかと思う。</p> <p>麻溝台・新磯野地区整備推進事業については、第8回線引きという少し難しいお話をした。令和元年には人口が減っていく見込みだったが、コロナ禍もあってか東京23区から若い世代が多く転入しており、令和3年度は全国トップ10に入る転入超過率の高さだった。</p> <p>当該事業は、これまで皆様にお示ししてきた図と異なる点も出て来ると思う。今後、線引きの都市計画審議会も始まるので、しっかり審査してもらいたいと思うが、相武台、相模台、麻溝、新磯の4地区の皆様には長い間ご心配をおかけしてきた。緑区では、橋本にリニア中央新幹線新駅ができる。「降りたい駅」を目指して今年度中の都市計画決定に向けた準備を進めている。中央区は、相模原駅の北側に相模総合補給廠一部返還地があり、新しいまちづくりをしている。このように、緑</p>
--------	---

区、中央区に大きなまちづくりが集中しており、南区はどうかのご心配いただくが、私は、当該事業は、南区の起爆剤の1つに成り得る事業だと思っている。

当該地区は、市の職員が毎日パトロールに回っている。ご指摘があったようにフェンスが取れている箇所や、雑草が伸びている箇所もあるので、防犯上・安全上からも早く工事が進むようにしたい。令和6年度には工事が始まり、令和7年度から第一整備地区には新たなまちづくりが始まるので、色々なご意見をいただきたい。

次期一般廃棄物最終処分場を始めとした公共施設の扱いについては、今後、市全体として考えていく必要がある。今回、候補地として答申された津久井の根小屋地区の皆様や、麻溝地区の皆様からも厳しいご意見をいただいた。更に今日、改めて相武台地区の皆様の思いをお聞かせいただき、理解できるところも沢山あった。

ご指摘いただいたように、都市計画審議会は専門家で決定してきたが、今後更に皆様からの市民意見を聞くための場を作っていくべきだと考えている。

最終的にはどこかに次期一般廃棄物最終処分場候補地を決めなければならない。その時には、皆様からご理解いただけるように、真摯に対応しなくてはならない。反対だからもう話しても仕方ないではなく、反対の方にも少しでもご理解いただき、互いに妥協点を見出せるように対話を進めて参りたい。

児童館の再編については、1小学校区に複数ある児童館を対象としているので、相武台第3児童館は該当しない。

現在、私たちは子育て、教育、まちづくりの3点を施策の大きな柱にしており、今年の10月には、中学生以下の子どもたちの公共施設の個人利用の無償化を実現したいと思っている。子育て施策もしっかり光を当てていきたいし、小児医療費の助成に関しても審議している。間もなく方向性を決定していく予定だが、そういった中でもえぎ台小学校の閉校に伴う跡地利用の提案はどれも面白いと感じた。

中央区でも青葉小学校の閉校に向け、どういう風に地区の皆様に戻元できるかという視点のもと、跡地利用の方向性をワークショップ形式で話し合っている。相武台地区についても皆様と対話しながら進めていきたいと思う。

今後、センター方式での中学校の完全喫食の実現を目指し、給食センターを2ヶ所ほど建設する予定である。現在、古淵の東清掃工場跡地を拠点に考えているが、こちらに関しても現在、説明会を行っている。

災害時の炊き出し機能を1つの機能として提案していくが、もえぎ台小学校も自校方式での給食提供であるから、ここにも炊き出し機能を持たせることができると思う。原発も含め、100%安全神話はないと思っているので、様々な事実や可能性を伝えながら検討していきたい。

私たちは、今後も市民の皆様ともっと対話して、勉強しなければならない。一緒に魅力あるさがみはらを考えて作っていただきたい。市民の皆様が主役のまちづくりをこれからも進めていきたい。